

7) 冷媒追加封入

(1) 下表に従い、冷媒封入量を計算してください。

	工場出荷時チャージ量(kg)	追加チャージ不要の現地配管長さ(m)	冷媒配管(液管φ9.52)1mあたりの追加チャージ量(kg)
VP80	1.7	30	0.04

- 室外ユニットは配管長30m相当分の冷媒量が工場出荷時に封入されており、30mまでは現地での追加チャージが不要です。それを超えた分については、配管長と上表より追加封入量を計算してください。
- 既設配管を使用する場合は、液管サイズにより必要封入量が変わります。詳しくは「6. 既設配管対応」をご確認ください。

追加冷媒量計算式	VP80	追加封入量(kg)=(主管長(m)－チャージレス分30(m))×0.04(kg/m)	※追加冷媒量の計算結果が負の値になる場合は、追加チャージ不要です。
----------	------	--	-----------------------------------

(2) 冷媒封入

- 操作弁を閉じたまま、必ず液側のサービスポートから液冷媒で封入してください。規定量が封入できない場合は、室外ユニットのバルブを液側、ガス側ともに全開にした後、冷房運転を行いガス側（吸入側）サービスポートから封入します。この際も、ポンペからの冷媒取出しは必ず液相で行ってください。ただし圧縮機保護のため、ポンペのバルブを絞り気味にするか、液冷媒を霧状に変換する専用ツールを使用して、ユニットに吸引された時にはガス化しているように調整してください。
- 冷媒の封入は必ずはかりを使用して計算封入してください。
- 運転しながら冷媒封入する場合は必ず30分以内に完了してください。冷媒不足の状態で長時間運転されますと圧縮機の故障の原因となります。

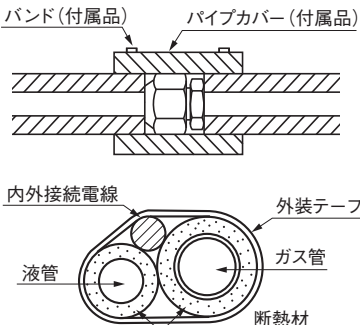
注意

- この製品はフロン排出抑制法の第1種特定製品です。
- フロン類をみだりに大気に出すことは禁じられています。
- この製品を廃棄・整備する場合には、フロン類の回収が必要です。冷媒回収するときは、フロン排出抑制法の基準に従ってください。
- 冷媒の追加・回収量および出荷時との合計量をサイドカバー裏面の冷媒量記入銘板に必ず記載してください。また、そのCO₂換算値も記入ください。
- 機器の修理、運転、調整などにより、冷媒の回収や充填を行い表示内容が生じたときは、冷媒量を再記載してください。

8) 断熱・防露

- (1) 冷媒配管（ガス管、液管共）の防露断熱工事を行ってください。
- ・防露断熱工事に不備があると、水漏れまたは露たれが発生し、家財等を濡らす原因となることがあります。
- (2) 断熱材は120℃以上の耐熱性があるものをご使用ください。耐熱性が低いと断熱不良や電線劣化の原因となります。

- ・ガス管は冷房運転時、配管に結露したものがドレン水となり水漏れ事故となることがあります。また、暖房時には吐出ガスが流れ、管表面温度が高湿となるため、人に接触すると火傷などの危険があります。
- ・室内ユニットのフレア接続部分は断熱材（パイプカバー）で断熱してください。（ガス管・液管共に断熱してください。）
- ・断熱はガス側、液側配管共両方に行ってください。その際断熱材と配管を密着させて隙間ができないように接続線と共に外装テープで巻いてください。
- ・本エアコンはJIS露付条件で試験を行い不具合のないことを確認しておりますが、**相対湿度70%を超える天井内等では、ガス側、液側配管共厚さ20mm以上の断熱が必要となります。**

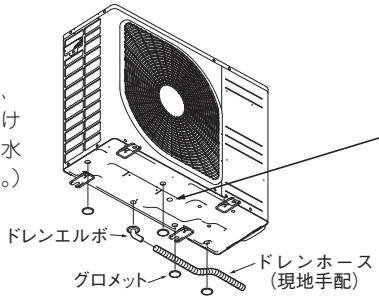


3. ドレン配管工事

- 室外ユニットからのドレンが問題になる場所では、同梱のドレンエルボ、ドレングロメットを利用してドレン配管を施工してください。

0℃以下の気温が数日続く地域では、ドレンエルボ・グロメットは取り付けないでください。(凍結によりドレン水が排水できなくなる恐れがあります。)

※三菱重工冷熱(株)ドレン集中排水キット HA05700Aを推奨します。



注意

この穴部分には、グロメットを取付けない。この穴は、ドレン水が多量にたまった場合の予備の排水穴です。

- 凝結水を排水口などに導くときは平置き台（別売品）やブロックなどに載せて据え付けてください。

4. 電気配線 電気工事の詳細は、室内ユニットの据付説明書をご覧ください。

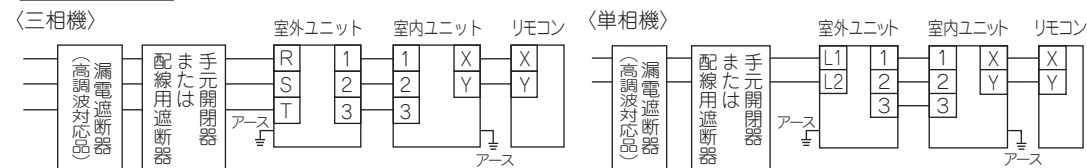
- 漏電遮断器の取り付けを必ず行ってください。漏電遮断器が取り付けられていないと火災や感電の原因になることがあります。
- 室内外配線は同一端子番号を接続してください。
- 配線は、配線クランプで固定し、端子接続部に外力が伝わらないようにしてください。
- 制御箱にアース端子があります。D種(第3種)接地工事を必ず行ってください。
- 内外渡り線は必ず3心ケーブルを使用してください。シールド線は使用しないでください。

電源・内外接続線

- アース工事を行う際には、電源を切った状態で実施してください。

注意

漏電遮断器の誤動作を防ぐため、必ずインバータ回路用遮断器を使用してください。



機種	漏電遮断器定格電流	手元開閉器		配線用遮断器 定格電流	電源配線 太さ×本数	こう長	内外接続線 太さ×本数	アース線	
		開閉器容量	B種ヒューズ					太さ	ネジ
単相	VP80	30A, 30mA, 0.1sec	30A	30A	3.5mm ² ×2	22m	φ1.6×3	2.0mm ²	M5
三相	VP80	15A, 30mA, 0.1sec	30A	15A	3.5mm ² ×3	39m	φ1.6×3	2.0mm ²	M5

※室内ユニットがFDU、FDR機の場合

機種	漏電遮断器定格電流	手元開閉器		配線用遮断器 定格電流	電源配線 太さ×本数	こう長	内外接続線 太さ×本数	アース線	
		開閉器容量	B種ヒューズ					太さ	ネジ
単相	VP80	30A, 30mA, 0.1sec	30A	30A	3.5mm ² ×2	20m	φ1.6×3	2.0mm ²	M5
三相	VP80	20A, 30mA, 0.1sec	30A	20A	3.5mm ² ×3	36m	φ1.6×3	2.0mm ²	M5

- 配線仕様はVCT線を金属管または合成樹脂管配線し、管内に3本以下で電圧降下2%とした場合を示します。これ以外の条件は内線規程により実施してください。
- 上図は室外電源取りの場合を示します。既設配線用接続（室内電源取り、室内、室外電源取り）はカタログ・技術資料を参考ください。

5. 試運転

警告

- 試運転の前に操作弁が全開になっていることを必ず確認してください。
- 試運転の6時間前に電源を入れ、クランクケースヒータに通電してください。
- 停止から運転までは、必ず3分以上待ってください。
- サービスパネルを外すと、高圧充電部・高温部が露出して危険です。感電や火傷に十分注意してください。また、サービスパネルを開けたまま放置しないでください。

注意

- 現地設定スイッチを操作する場合は、充電部に触れぬよう十分注意してください。
- 液操作弁のチャージポートから吐出圧力の検圧はできません。
- 四方弁(20S)は暖房運転時に通電されます。
- 電源遮断によりリセットする場合は、電源遮断より3分経過後に電源を再投入してください。3分経過後でなければ「E-5」(通信異常)が発生する場合があります。

絶縁抵抗について

- 据付け直後、もしくは元電源を切った状態で長時間放置した場合、圧縮機に冷媒が溜まることにより、絶縁抵抗が数MQまで低下することがあります。絶縁抵抗が小さく、漏電ブレーカーが動作する場合は、以下の事項を確認してください。
- ①電源を投入し、6時間程度経過後、絶縁抵抗が復帰するか確認する。
- 電源を投入することにより、圧縮機に過電加熱を行い、圧縮機に溜まった冷媒を蒸発させます。
- ②漏電ブレーカーが高調波対応品であるか確認する。
- 本機はインバータを装備しており、漏電ブレーカーの誤動作を防止するため、高調波対応品を使用してください。

1) 試運転方法

サイドカバーを外してください。

- (1) 現地設定スイッチSW5-3、4により室外ユニット側から試運転が可能です。
- (2) SW5-3をONすることで圧縮機が運転します。
- (3) SW5-4がOFF状態で冷房試運転を行い、ON状態では暖房運転を行います。
- (4) **試運転終了後は、必ずSW5-3をOFFに戻してください。**

SW-5-3	SW-5-4	
ON	OFF ON	冷房試運転 暖房試運転
OFF	—	通常、および 試運転終了

2) 運転状態のチェック

サイドカバーを外してください。

吐出圧力、吸込圧力の検圧は、室外ユニット内部の四方弁後に取り付けられたチェックジョイント及び、ガス操作弁のチャージポートから行ってください。冷房運転・暖房運転によって右表のように検出圧力は異なります。

	配管の チェックジョイント	ガス操作弁の チャージポート
冷房運転	吐出圧力（高圧）	吸込圧力（低圧）
暖房運転	吸込圧力（低圧）	吐出圧力（高圧）

3) 現地設定スイッチ SW5-1の設定

サイドカバーを外してください。

- デフロスト制御切換え(SW5-1)
- ・ONすることでデフロスト制御に入り易くなります。
- ・暖房シーズン時、外気温が氷点下以下となる地域は、設定をONにしてください。

4) 試運転時の故障診断

リモコン表示	室外基板LED表示(周期5秒)	故障内容	対策
E34	1回点滅	欠相	電源線のゆるみ、外れないことを確認
E57	1回点滅	操作弁閉運転	1. 操作弁が開いているか確認 2. 圧縮機停止から3分経過後、異常が解消されていればリモコンからの点検リセットにより再起動可能

- 上記以外の異常が表示される場合は、室外ユニットと室内ユニットの配線銘板をご覧ください。

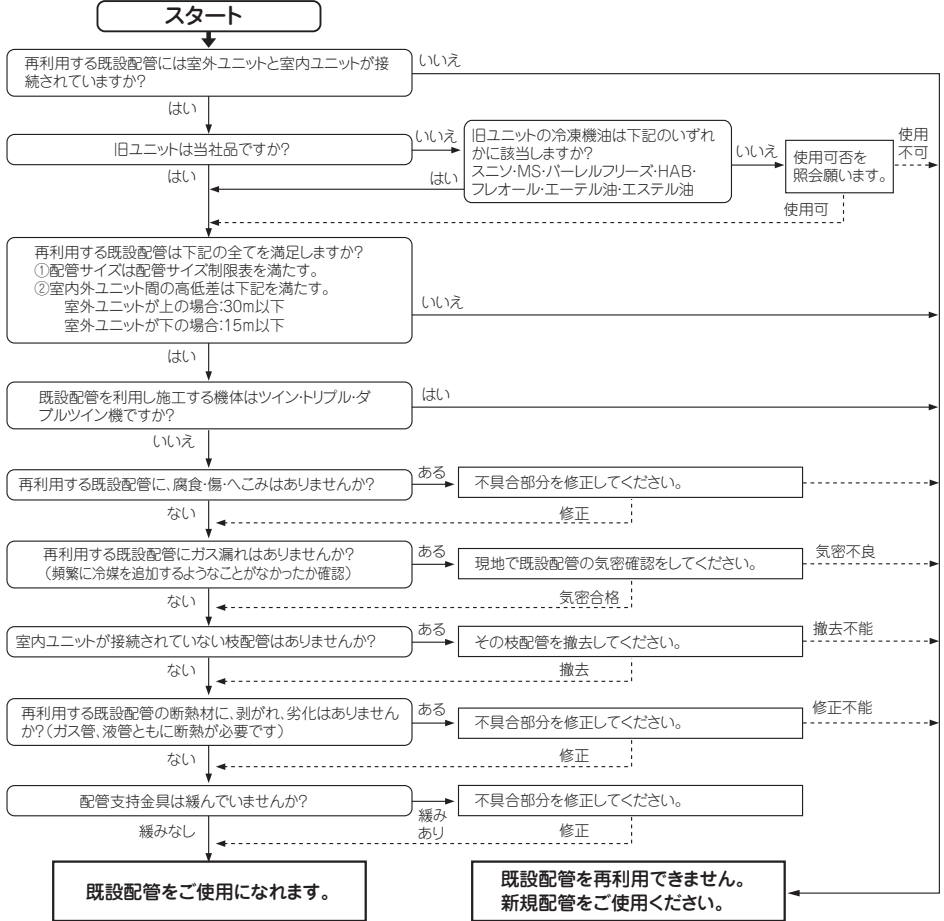
5) 停止時の電子膨張弁の状態

電源投入時の通常停止時、および異常停止時の電子膨張弁の状態は右表の通りです。

電源投入時	通常停止時	異常停止時
微開	全開	全開

6. 既設配管対応

既設配管が再利用できるかどうかを下記フローチャートを使用して判断してください。リニューアルキット（オプション）をご使用の場合は、キット内に付属の説明書をご覧ください。



〈配管サイズ制限表〉

○:標準配管サイズ ○:使用可能 △:配管長制限超

配管 1m 当たりの追加チャージ量		0.02kg/m		0.04kg/m		0.11kg/m	
配管サイズ	液管	φ 6.35	φ 6.35	φ 9.52	φ 9.52	φ 9.52	φ 12.7
	ガス管	φ 12.7	φ 15.88	φ 12.7	φ 15.88	φ 19.05	φ 15.88
VP80	適用可否	冷 ↓	△	冷 ↓	○	○	△
	最大配管総長	20	20	50	50	50	35
チャージレス長		10	10	30	30	30	15

追加チャージ量計算式

追加チャージ量(kg)=(主配管長(m)－表のチャージレス長(m))×表の配管1m当たりの追加チャージ量(kg/m)
--

※計算の結果が負の値になる場合は追加チャージ不要です。
例) 既設配管30m(液管φ12.7、ガス管φ15.88)を使用して、VP80を設置する場合。
(30m-15m)×0.11kg/m=1.65kgを追加チャージする。

注意

〈既設ユニットが冷房運転可能な場合〉

既設ユニットで下記作業を実施してください。(①→②→③→④の順番)

- ①30分間冷房運転
- ②ビニールシートなどで室内ユニット吸込口に完全に閉塞し3分間冷房運転（液バック運転）
- ③室外ユニットの液操作弁を締めポンプダウン（冷媒回収）
- ④窒素ガスによるブロー ※ブローにより変色した冷凍機油や油以外の残留物が排出された場合は「配管洗浄」または「新規配管」をお願いします。

〈既設ユニットが冷房運転できない場合〉

「配管洗浄」または「新規配管」をお願いします。

- フレアナットは流用せず室外ユニット付属のものを使用してください。またフレアはR32用に再加工してください。
- 「配管洗浄」を行う場合は、最寄の代理店にお問い合わせください。

PSC012D189